

2014. 5. 25 福島再生の会 報告会参加の皆さんへ御礼

2014.5.26 特定非営利活動法人福島再生の会 理事長 田尾陽一

5・25 福島再生の会報告会は、企画段階の予想以上に、参加者の皆様のご賛同の声が大きかったと感じております。被災住民・ボランティア市民・専門家の真の対話に向けて一歩を踏み出せたと思います。被災住民の方々の苦渋の時間はまだまだ続いているのですが、この3者の「共感と協働」の活動がこの段階に来るまでに3年の時間が必要でした。

飯舘村から避難中の12名の村民、元福島県知事佐藤栄佐久様、そして東北・福島関係の皆様のご参加と積極的な発言を得て、非会員の方も多かった参加の人たちとの多岐にわたるより密接な会話を実現することが出来ました。特に、若手の村民5人の参加と発言は、今後の再生への道を模索する上で重要な視点を提供してくれました。

村民、福島再生の会の会員、大学・研究機関の専門家の3年にわたる、飯舘村現地協働活動の成果は、ポスター展示として一堂に会し、それらの説明と議論の輪が広がりました。初めて参加された人たちはもとより、村民・福島再生の会会員・専門家双方の間で全貌が一覧でき、相互の対話出来る空間を創ることが出来ました。静かに被災の現場を映し続けてきた写真展も大きな感動を呼びました。

この報告会の企画・実行を支えた実行委員会20名余は、2月以来夜遅くまで計5回の定例会とその方針に基づく作業を続けました。さらに前日準備と25日当日の仕事に会員や学生が加わり、Ustream 中継・記録撮影を担ってくれた人たちを含めると、50名ぐらいが支える側で活動してくれました。厚く御礼申し上げます。

若手村民も参加した実行委員会の長時間の議論の中から「再生の意味」というテーマも産まれ、福島再生の会の活動内容も相互理解が広がりました。また、福島再生の会の各種活動チームのメンバーが、一つの展示ポスターを協働で作ることを通じて、相互理解と今後の方針を議論する場を創りあげることが出来ました。職業経験も考え方も違う多彩な人たちが集まり、自主的に活動を創り上げている本会ならではの相互対話のプロセスだと思います。

5・25 報告会が、単なる報告会でなくその前後のプロセスを重視しているということ、当日の対話をきっかけに対話のネットワークが今後も次々に広がっていくことを祈念していることを、最後に申し添えて、御礼の言葉といたします。

今週末には飯舘村佐須の菅野宗夫さん宅で3回目の田植え、その他の活動が行われますので、多くの会員・関係者が飯舘村に集まります。また、福島・飯舘村でお会いしましょう。